

胎児期被ばく

胎児期被ばく たいじきひばく

妊娠8週目から出産までの期間を胎児期と呼ぶ。この時期の放射線感受性は、それ以前の胚の形成期に比べ低く、奇形発生へのしきい値は0.1 Gyとされている。障害としては、確率的影響である白血病や小児癌の発生率が増加し、成人の被ばくによる発癌の割合に比べて2倍も高いとされる。

<登録年月>

2000年02月
